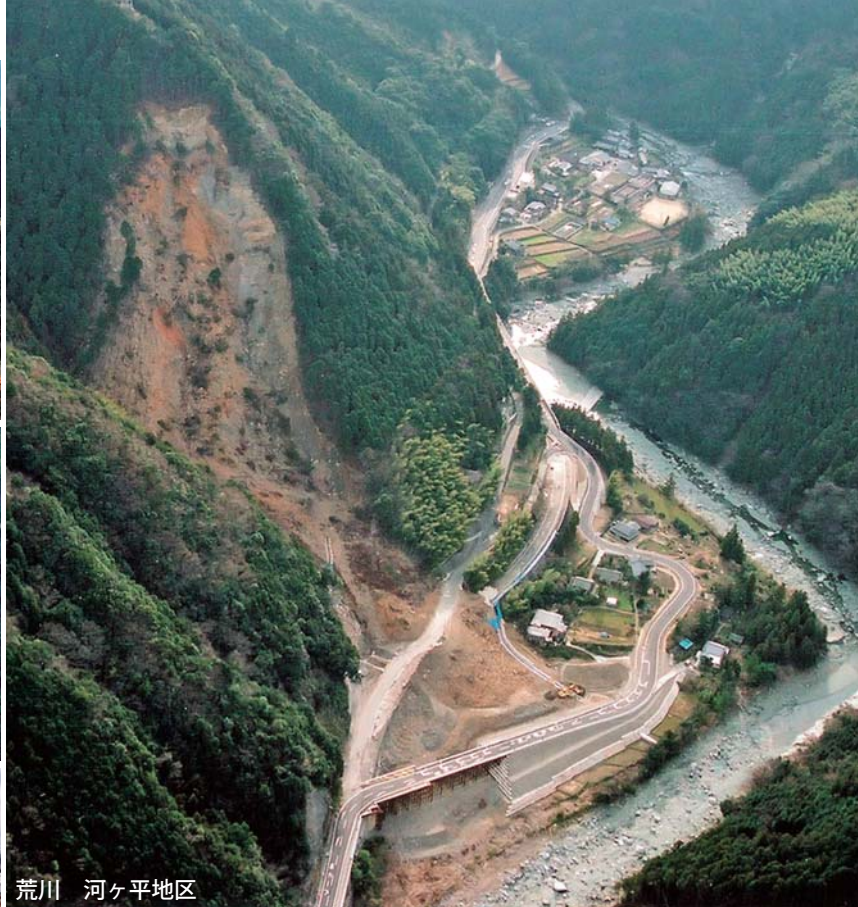




荒川 大平地区



早川 西早川地区



荒川 河ヶ平地区

▲当日は、一般公募による21名の市民も参加。変わり果てた山の姿にがく然とされていました。

▲視察を終えた、(左から)伊藤市長、京都大学フィールド科学教育研究センターの田中克所長、京都大学大学院地球環境学堂の小林正美教授。

今、山は悲鳴を上げている

ヘリコプターによる台風21号被災地域視察

昨年9月29日の台風21号による被災地の状況を市民の皆さんに知っていただくとともに、あの被災を風化させないため、3月12・13の両日にヘリコプターでの視察を実施しました。

想像を超える被害状況に、参加した皆さんからは驚きの声とともに、地域での防災組織づくりの必要性を唱える声があり、今後の防災対策を真剣に考える一日となりました。

視察には、公募の市民、各種団体の代表者、学識経験者、国・県の職員、市・県議会議員など、各界各層から105名の皆さんに参加をいただきました。参加者は、西条運動公園を離陸後、旧西条市の早川、大浜、荒川、黒瀬および旧小松町の石鎚、大郷など、市内で特に被害の大きかった地区を25分ほどかけて見て回りました。

ヘリから降りられた皆さんは、想像以上の土砂崩れの状況や広域にわたる大規模災害の状況に改めて台風の恐ろしさを認識するとともに、森林の大切さを実感されたようでした。

現在市では、昨年の災害の教訓を生かすため、「災害対策検討会議」(仮称)の立ち上げに向け、

準備を進めています。

今回の視察に参加された同会議の予定メンバーである京都大学の田中克氏や小林正美氏をはじめとする学識経験者の皆さんからは、「森と里(川)と海は密接につながっている。現在の山の状況を自分の目で確かめて、山が荒れていることを知って欲しい。山や森林を再生するには自分はどうするべきか、次の世代に何を伝えるべきか考え、地域と行政とがこの危機感を共有しながら、安全なまちづくりに向けて取り組む必要がある」とのご意見をいただきました。

災害に強いまちづくりのため、市民の皆さんの一層のご理解とご協力をお願いいたします。